



「しが水環境ビジネス推進フォーラム」における 今後の活動について

平成25年4月
滋賀県

水環境ビジネスをめぐる国内外の現状

(1) 世界の水資源および水ビジネスの状況

アジア諸国をはじめとして、人口増加や都市化・工業化の進展とともに、世界的に水需要が急増する見込み。

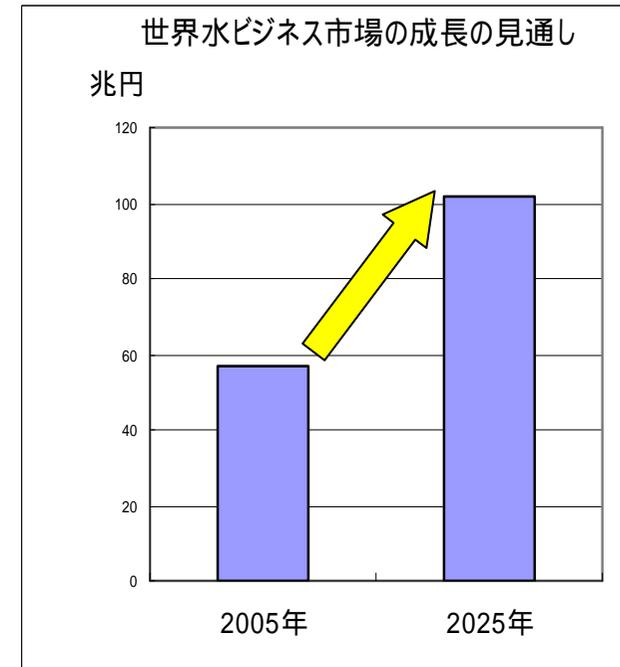
河川・湖沼における水質汚染が深刻化

2025年の水ビジネス市場規模は100兆円規模の予測。

企業、政府等による水ビジネスの海外展開が活発化。

(2) 自治体における水ビジネスの取組状況

政令指定都市(横浜市、大阪市、北九州市等)を中心に、これまでの上下水道の運営管理の実績や国際技術協力でのネットワークを活かした、上下水道インフラ等の海外展開の取り組みが進展。



出典:最新水ビジネスの動向とカラクリがよ〜くわかる本(秀和システム 吉村和就氏著 2012年9月)をもとに作成

本県の進める「水環境ビジネス」とは

上下水道の設計構築・運営管理や海水淡水化や高度技術を用いたプラント建設などを指すいわゆる「水ビジネス」だけでなく、

水環境保全に係る分析機器の開発や水処理施設の省エネルギー化など、水に関わる環境分野のビジネスを含めたもの。

滋賀の水環境ビジネスの現状

平成23年度「水環境ビジネス展開研究調査」を実施

目的: 水環境に関するビジネスのポテンシャルを活かした展開を
推進するため、取組の方向性をとりまとめる

調査方法: 企業アンケート(約1000社、うち427社回答)、
ヒアリング調査(26社)、
有識者による研究会の開催(計4回)

結果概要:

本県の水環境ビジネスに取り組んでいる企業 **94社**

- ・海水淡水化用途の逆浸透膜(RO膜)の生産や技術開発を行う
大手メーカー
- ・小型化や高寿命といった付加価値の高い製品を開発、製造する中
小企業など

今後取り組もうと考えている企業 **30社**

企業数は、いずれもアンケート
回答427社中

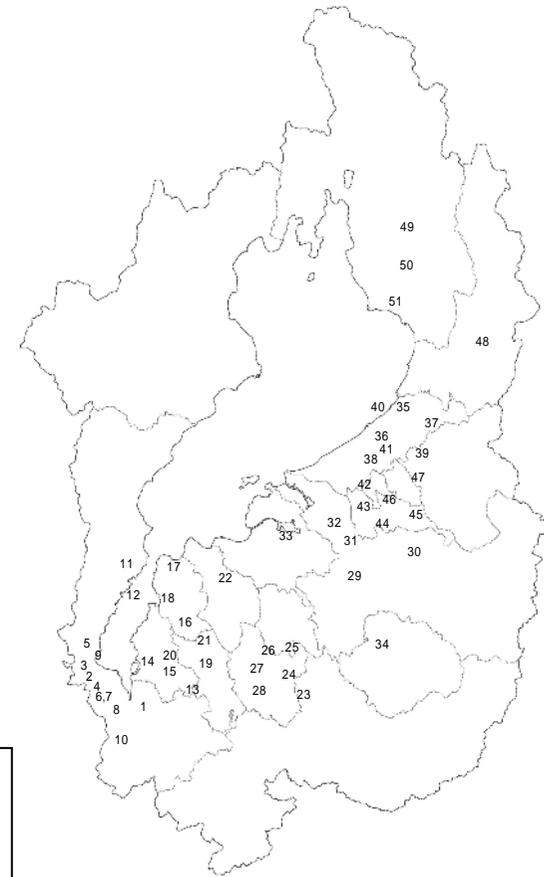
本県における水環境ビジネスの強みと弱み

強み

- ・水環境に関する優れた技術や
知見をする企業、研究機関の
集積
- ・琵琶湖流域の環境保全に関す
る官民による取組の蓄積、関心
の高さ

弱み

- ・水環境ビジネスの展開に不可
欠な、技術やサービスをシステ
ムで提案できる企業が少ない
- ・海外展開の情報、専門人材の
不足 など



水環境ビジネスに取り組む県内企業の集積
(平成23年度「水環境ビジネス展開研究調査」結果)

滋賀の先駆的な取組「琵琶湖モデル」

滋賀県は、工場が集積し、全国屈指の「モノづくり県」として発展。
琵琶湖の水を生活用水や産業用水などに広く活用しながらも、
水質的には比較的良好な状態を維持。
県民、企業、大学、行政が連携しつつ、それぞれの立場から
水環境保全に取り組み、ともに技術やノウハウを創出・蓄積。

1 琵琶湖を守る県民の活動、取組

～石けん運動、ヨシ群落の保全、琵琶湖一斉清掃、
環境学習、河川流域の保全活動～

2 行政による琵琶湖の水環境保全に 向けた制度設計、取組

～富栄養化防止条例をはじめとする条例制定、
下水道の普及、マザーレイク 21 計画～

「琵琶湖モデル」を支える4つの柱

3 企業による地域に根差した 水環境保全活動の進展・努力

～水質改善・保全に向けた行政との関係構築、
企業団体の設立～

4 琵琶湖周辺に集積する知識・技術・ ノウハウ

～先進的な水環境ビジネスを取り組む企業、
大学等研究機関など～

滋賀の水環境ビジネスの展開

水環境ビジネスの展開の方向性

最新動向の情報提供や新規プレイヤーを発掘するためのセミナーの開催



プラットフォームを形成し、特に中小企業のパートナーの発掘やマッチングを進める

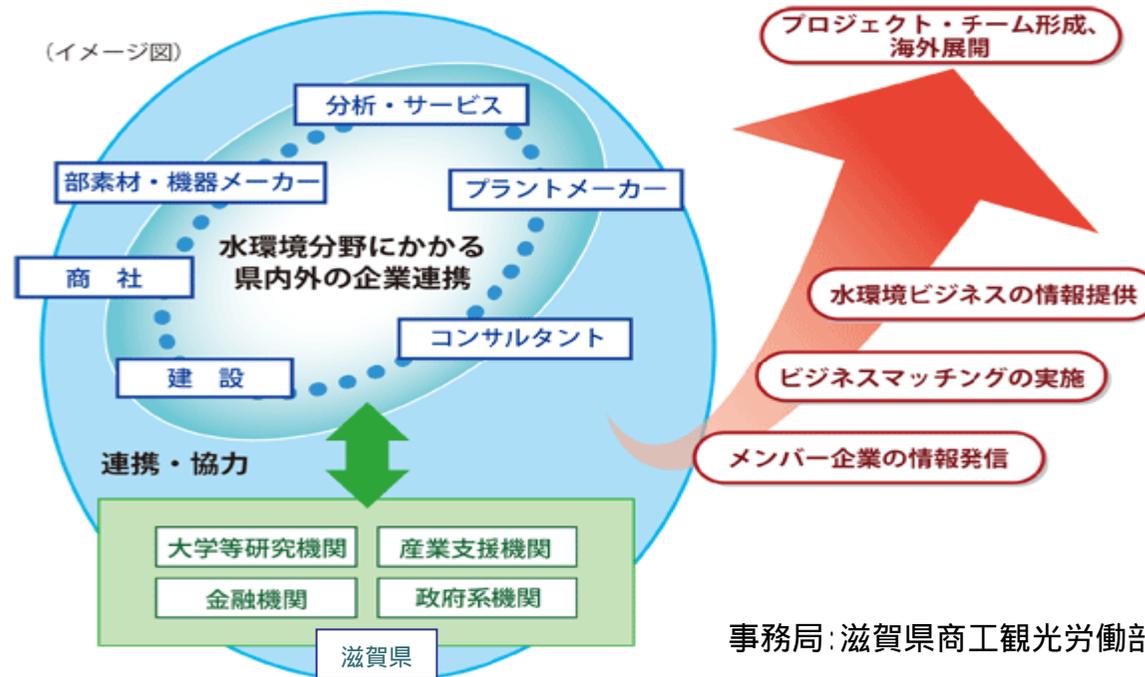
企業のみならず住民、行政を含む本県の水環境にかかる取組の蓄積(「琵琶湖モデル」)の整理



企業の技術・サービスと「琵琶湖モデル」を併せた売り込み

県内企業の水環境ビジネスへの参入・事業拡大へ

しが水環境ビジネス推進フォーラム



水環境ビジネス これまでの取り組み

しが水環境ビジネスセミナーの開催

目的: 世界における水ビジネスの最新動向や先行事例を提供し、気運の醸成を図るとともに、フォーラム立ち上げに向けたネットワーク形成を促進する。

日時: 平成24年10月24日10:00-12:00

場所: 長浜ドーム(びわ湖環境ビジネスメッセ会場内)

基調講演: 「世界水ビジネスの最新動向と参入機会」
グローバルウォーター・ジャパン 代表 吉村 和就 氏

事例発表: 「水ビジネスの海外展開戦略(関西HANDsの取り組み)」
(株)ナガオカ 代表取締役社長CEO 三村 等 氏
「独自の水環境ビジネスの展開をめざす
～ 中小企業の国際化の始まりから今後の展望～」
(株)日吉 代表取締役社長 村田 弘司 氏

施策紹介: 近畿経済産業局
滋賀県

結果概要:

参加者: 79名

アンケート結果(主なコメント):

- ・水ビジネスの流れがよく分かった。
- ・トップの姿勢、スピードの重要さが非常に参考になった。
- ・日本企業の合同戦略の重要性を再認識した。
- ・日本企業の連携成功事例は大変参考になった。



セミナーの様子



講演者と知事

これまでの取り組み（つづき）

しが水環境ビジネス見学会

目的：水環境ビジネス展開を図る上で参考となる施設の見学や水ビジネスの最新動向などを提供し、
気運の醸成を図るとともに、フォーラム立ち上げに向けたネットワーク形成を促進する。

日時：平成24年11月16日13:40 - 17:15 場所：湖南中部浄化センター

講演：「水ビジネスの現状と今後の展望について」

(株)神鋼環境ソリューション 水処理事業部 プロジェクト営業室課長 梶田 均 氏

説明：「湖南中部浄化センターについて」

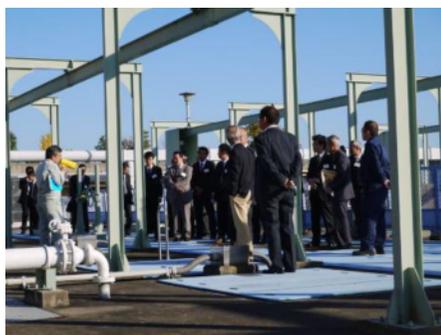
滋賀県下水道公社

「滋賀県の下水道事業における課題と水ビジネス-淡海環境プラザの開設と今後の展開-」

滋賀県琵琶湖環境部下水道課

視察：湖南中部浄化センター、テストベッド、淡海環境プラザ

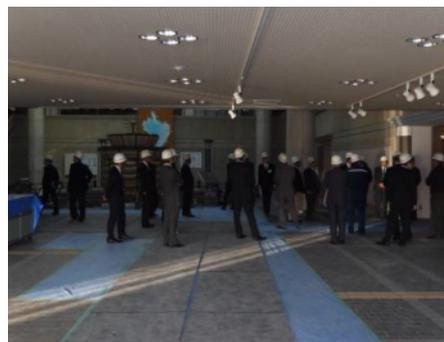
参加者：59名



汚水処理施設の視察



テストベッド用地の視察



淡海環境プラザの視察



講演風景

北九州市海外水ビジネス推進協議会、ウォータープラザ北九州の視察

日時：平成24年11月27日 参加者：9名

・北九州市では、国際技術協力で培ったネットワークを活用し、積極的に水ビジネスを展開。

・ウォータープラザ北九州では、NEDO事業を活用し、東レ、日立プラントなどが参画して、海水淡水化と
下水再利用を統合させた造水システムの実証プラントと、先端技術を開発するテストベッド(5区画)を整備。

これまでの取り組み（つづき）

ベトナム政府視察団の受け入れ

日時：平成24年12月5日

高い経済成長が続くベトナムでは、新たな工業団地の造成計画に伴い、排水処理や環境対策が急務。今回はJICA事業により来日した建設省、ハナム省、ドンナイ省、バリアウンダウ省、ハイフォン市の政府関係者及び工業団地管理者等11名を受け入れ。

説明：滋賀県における水環境保全の取り組み等
(株)日吉

滋賀県琵琶湖環境部 環境政策課

視察：東北部浄化センター、大洋産業(株)(彦根市)、高橋金属(株)(長浜市)



視察の様子



講義風景



視察先の講師とベトナム政府視察団

これまでの取り組み（つづき）

第2回しが水環境ビジネスセミナーの開催

目的：世界における水ビジネスの最新動向や先行事例を提供し、気運の醸成を図るとともに、フォーラム立ち上げに向けたネットワーク形成を促進する。

日時：平成25年1月28日14:00-18:15

場所：コラボしが21 3階大会議室

基調講演：「中国の水環境と水ビジネスの動向」

(株)チャイナ・ウォーター・リサーチ 代表 内藤 康行 氏

事例発表：「当社の排水プロセスと海外展開について」

(株)アオヤマエコシステム 代表取締役社長 青山 章 氏

施策紹介：日本貿易振興機構 大阪本部
滋賀県

結果概要：

参加者：93名



セミナーの様子



交流会の様子



CWR代表 内藤氏

これまでの取り組み（つづき）

しが水環境推進フォーラムキックオフセミナーの開催

目的：世界における水ビジネスの最新動向や先行事例を提供し、気運の醸成を図るとともに、ネットワーク形成を促進する。

日時：平成25年3月25日13:30-18:00

場所：コラボしが21 3階大会議室

挨拶：滋賀県知事、近畿経済産業局長

講演1：「メタウォーターの国内外の水ビジネスの取組みについて」
メタウォーター(株) 国際・新事業技術部長 岡本 裕三氏

講演2：「前澤工業のタイにおける水ビジネスの事例紹介」
前澤工業(株) 取締役海外推進室長 三田 志津雄氏

施策紹介：滋賀県

結果概要：

参加者：140名



キックオフセミナーの様子



小林近畿経済産業局長



嘉田滋賀県知事

「しが水環境ビジネス推進フォーラム」の設立

平成25年3月25日(月)設立

会員数: 74企業・団体(4月5日現在) メーリングリスト127名

うち県内: 64企業・団体(86%)

県外: 10企業・団体(14%)

会員構成

企業	水環境ビジネスに取り組んでいる	41社
	今後取り組む意向がある	13社
	上記取組を支援していく	10社

一部複数回答の企業・団体あり

支援機関等	政府関係機関	4団体
	大学等研究機関	4団体
	経済団体・産業支援機関	3団体
	その他	3団体

取組分野例:

装置設計・製造(排水処理システム、浄水装置、ろ過装置等)

部材開発・製造(膜、バルブ、空気弁、管材、凝集剤、分析機器等)

分析コンサルティング(水質分析、環境測定・調査、上下水道維持管理等)

ソフトウェア開発、海外展開支援、人材育成支援など

参加者
募集中

しが水環境ビジネス推進フォーラム設立に向けた取組

フォーラム・ポータルサイトの立ち上げ

県庁HP内に立ち上げ

内容: セミナーなどのフォーラム活動情報
メンバーの紹介や募集
支援施策の公募情報
水環境ビジネスの取組事例紹介 など



「滋賀の水環境ビジネス」の作成(日本語・英語・中国語)

水環境保全の取組や県内に集積する技術サービス等をPRする冊子を作成。

内容:

1. 経済発展と水環境保全の両立「琵琶湖モデル」
全国屈指の「モノづくり県」として発展しながら、いかにして琵琶湖という閉鎖性水域の水質を保ち続けてきたかについて紹介
2. 滋賀県内の水環境関連企業の紹介
部材や装置の製造、分析、コンサルティング等の水環境分野25社の技術・サービスを紹介予定。



しが水環境ビジネス推進フォーラムの今後の取組

フォーラムメンバーの技術等の整理

フォーラムからビジネス展開するための具体的なポテンシャルを把握することを目的に、参画する企業等の持つ技術・ノウハウ等を整理し、冊子としてとりまとめ予定。

セミナー・交流会の開催

水環境ビジネスの最新動向や先進事例の紹介、大手水処理メーカーからの発表等フォーラムメンバー、講師との交流会

分科会の開催

海外、企業、県などからの具体的なニーズに基づき、ニーズに対する提案や企業間連携の検討を行い、しが水環境ビジネスのプロジェクトチームの形成を目指す。

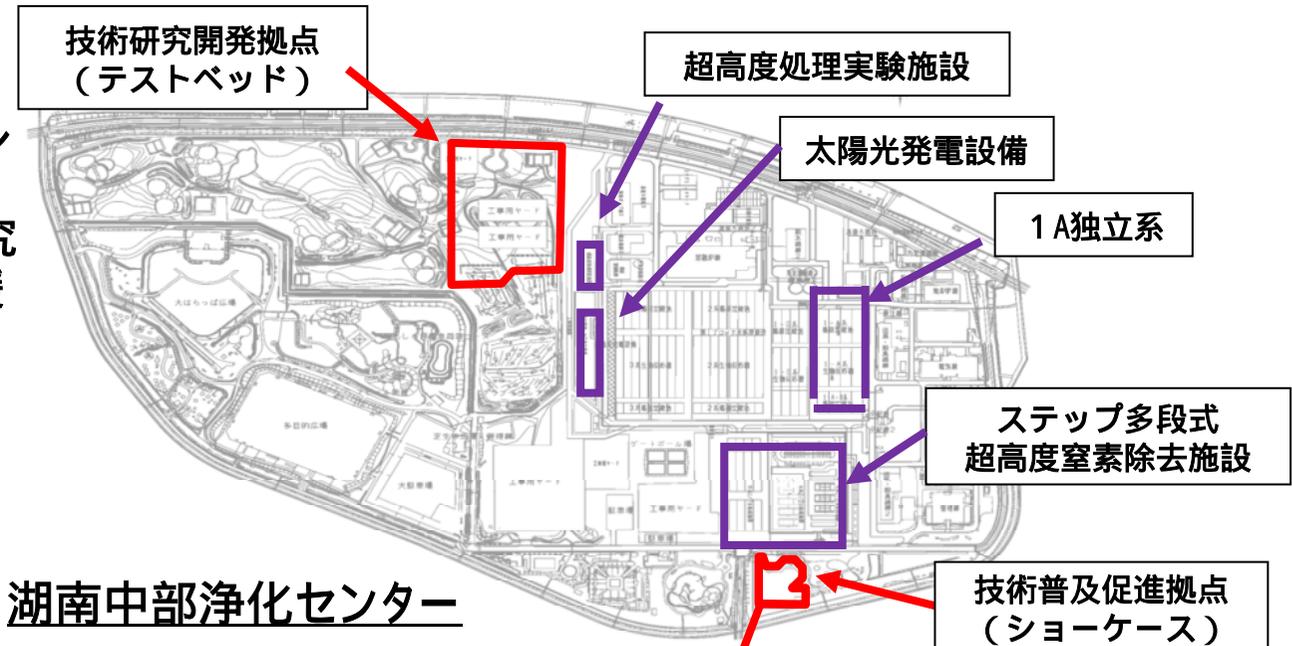
水処理大手等とのマッチング支援

水環境ビジネス展開の核となる大手プラントメーカー等のニーズに対して、県内企業が、技術・製品等を提案できるマッチングの仕組みを構築するとともに、本仕組みを活用したマッチング支援を実施する。

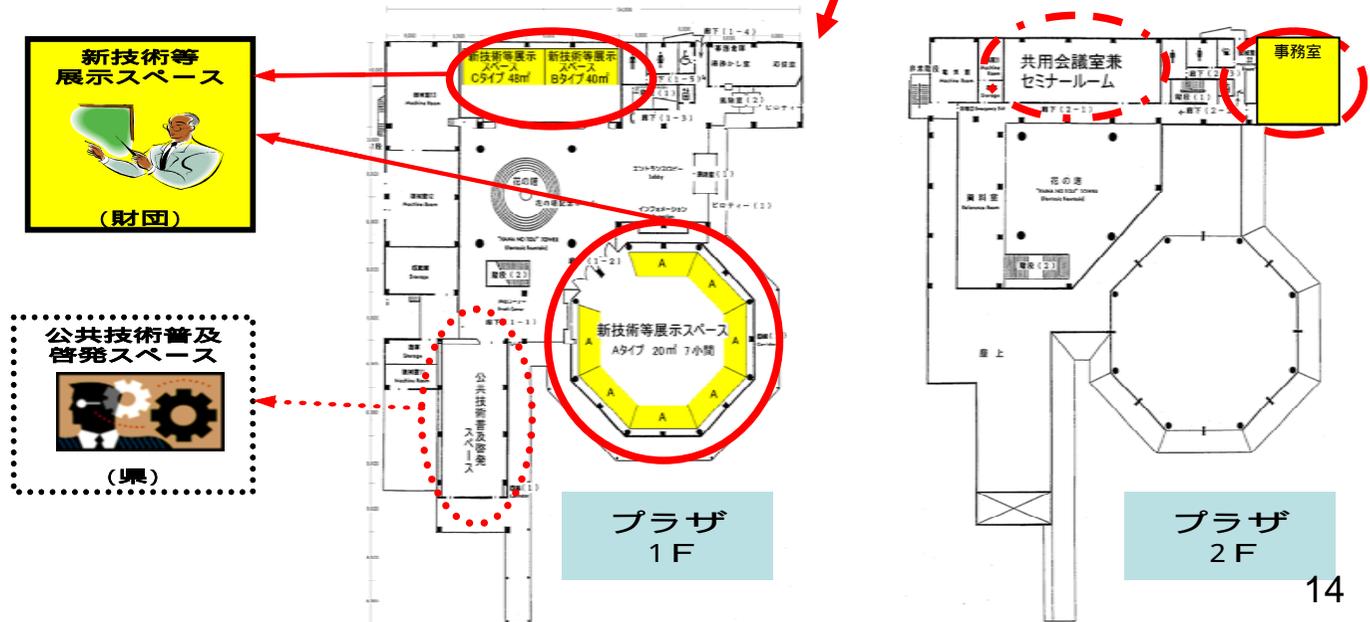
淡海環境プラザの設置

汚水処理の一層の効率化、さらには汚水処理に係る代替エネルギー（再生可能エネルギー）、省エネルギー化等の新技術の研究開発、普及促進を総合的に支援する拠点として設置

平成25年4月オープン



湖南中部浄化センター



湖南省 JICA 草の根技術協力事業実施イメージ

JICA 草の根技術協力事業
地域の資源・ノウハウを活用した技術協力

提案: 滋賀県
実施機関: 淡海環境保全財団

滋賀県の持つ資源・ノウハウ

- ・高度な下水処理、污泥処理施設
- ・高度処理運転管理の豊富な経験
- ・技術者養成の仕組み
- ・琵琶湖の流域統合的管理の実績
- ・環境教育、住民参加
- ・環境先進技術の集積

要請

協力

湖南省のニーズ

- ・急速な工業化による水質汚染や土壌汚染
- ・急増する処理場の適正管理
- ・運転管理経験の不足
- ・運転技術者養成システムの構築
- ・住民の環境意識の向上

Phase 1 (2013-2015)

Phase 2 (2016-2018)

Phase 3 (2019-2021)

- ・技術者養成プログラムの作成と実施
- ・運転管理マニュアルの作成と実施
- ・環境学習資料の作成と実施

実施と検証 (PDCA)
湖南省内への拡大普及

自立的・持続可能な
社会システムの構築

污水处理分野、水域統合的管理技術の技術協力をきっかけに
本県の水環境ビジネスプロジェクトの可能性も検討

プロジェクト創出等に向けた取組

「しが水環境ビジネス推進フォーラム」をもとに、チームづくりに向けた分科会の開催や大手企業とのマッチングなどにより、個別プロジェクトへの参画やプロジェクトの創出を促進していく。

